

各期の活動

ね。村人は皆健康であり度い。

今現実の日本を見る。如何に理想から遠いことか。食料は米国からの補給でやっと支えている。着るものも乏しい。旋野原に次第に仮小屋が建ってきたけれども新しい夫と妻とを容れる家がない。又絶え間なく闘争が繰り返される。次に世界を見渡す。日本程ではなくとも、理想に近いとは云い得ない。

如何にしてこの苦しい日本の現状を改良し得るであろうか。我々は理智 (Wisdom) を動員し、合理的 (Rational) な思索と実行をして有力ならしむるより他にないと思う。合理は科学である。科学に依つてのみ日本は救われる。

世界における大小の社会も亦合理即ち科学に依つてのみ発展進歩する。即ち、人間の本質の哲学を究め、人間造が相寄って作る社会の諸々の理論を研究する。永い過去に亘って人類が為し來った歴史と文書を究めて将来の幸福に資する。自然の現象の規律を求める、進んでその規律を医、農、工に応用して生活を豊かにする。誠に科学は人類社会の福祉の基礎である。それは研究室のみのものでなく、行政にも、産業にも生活にも反映浸透させなければならぬ。

誠に科学は有力である。然しこの力を抑取と破滅に使つてはならぬ。平和と繁栄に役立てねばならぬ。

日本の科学者は科学の力を信じ、その適用を企図して日本学術会議を作り、互に選んだ会員をこの会に送った。選ばれた210人は、科学こそ眞に日本を再建し世界人類の福祉に貢献すると圖く信じ、世界の学界と提携して、今日のこの日から活発に活動しようと思う。

終りに日本学術会議の生みの母である学術体制刷新委員会、殊に兼重委員長に厚く感謝する。又米國科学学士院より派遣せられた一昨年のアダムス博士ら一行、昨年のブロンク博士ら一行は、日本の科学者を激励し、よい助言を与えた。また占領軍司令部の経済科学院のケリー博士は終始変わらぬ援助と奨励を日本の科学者に与え、いずれもこの学術会議の誕生に大いに寄与した。厚く謝意を表すると共に今後益々助力を得度い。

本日発会式に当り、日本の科学者は勿論のこと、国民全体の深い協力の下に日本学術会議のすこやかな発展を期し、210名の会員に代って、茲にこの所信を述べた。

昭和24年1月21日

日本学術会議会長 亀山 直人

日本学術会議発会式における総理大臣祝辞

本日、日本学術会議の発会式に當りまして、第1回日本学術会議会員として当選の栄誉を授けられた皆様の前に、お祝の言葉を申し述べる機会を得ましたこと

第1期資料

實務を果し得る能力をもった全国的学術体制案を政府に提案する責任を担っていたのであります。

日本学術会議及び科学技術行政協議会の成立により、刷新委員会はその責務を完了したわけあります。この二つの機関の両方とも、日本人独自の立場から作られたもので、学術団体の歴史の中でも全く新しいものであります。刷新委員会は、日本の技術的問題と取組むために必要な機関の案を作ったということばかりでなく、非常に困難な事態の下にあってよく協力の実を挙げたことに対する賛嘆されるべきものであります。又日本誕生した日本学術会議に対し非常によい範例を示しているのであります。

日本学術会議の会員は、この全国の科学者の総意による地位に就くに当って、日本学術会議法に述べられている任務を果すことを承認したわけあります。日本学術会議法に述べてあるところによれば、日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与するものであります。これは大胆な誓約であります。この負荷の任務を遂行するには真に有能な人を要するであります。これらの責任を果すためには、学術会議員の一人一人が先ず最初に、自分の専門的な利益及び地域的の垣を乗り越えねばなりません。

敗戦以来荒廃したわが國土の上に、健全な文化國家を再興すると共に、世界の平和に貢献致しますために、科学の力が最も有効に応用されなければなりません。全国科学者の代表機関である日本学術会議の、今後における運営がよろしきを得るや否やは、直ちにかかるわが再建文化國家の盛衰にはもちろん、人類一般の福祉にも影響があるものと存ずるのであります。各位のご實務は、まことに重且つ大であります。

国会をいたしましても、各位のご活動に対し、できるだけ協力を致すことと信じます。何卒、各位におかれましても、切にご自愛ご自重の上、崇高なるこれら使命の達成に精進せられ、十分に日本科学者の真価を内外に発揚せられますよう、心から念願しまして祝辞と致します。

昭和24年1月21日

参議院議長 松平 恒雄

1949年1月21日日本学術会議発会式における
H. C. ケリー博士挨拶

座長、稲田総理大臣代理、内閣各員諸氏、日本学術会議会長及び列席の各位。

本日解散することになっております学術体制刷新委員会は、全国の科学者を代表し、又現下の新しい経済状態に關連した技術的問題を解決するという科学者の

は、私の深く喜びとるところであります。

思うに、天然資源に恵まれない我國が、戰争による荒廃から産業を立て直し、国民生活の安定と向上をはかることは現在の我國の當面するもっとも大きな、そしてもっとも困難な問題であります。これが根本的解決は科学技術の振興に供たなければならぬのであります。又戦争を創造に拠り平和的文化国家として、新しい日本を建設することを決意した私どもは、単に自國の平和と自國民の幸福をはかるのみならず、文化の発達なかんずく科学の振興を通じて、世界の平和と人類社会の福祉に貢献しようとする大きな理想を持たなければなりません。まさに科学の振興こそ新日本再建の基礎であると共にその目標であると思うのであります。

日本学術会議は、科学振興のこのような国家的要請に応えて、科学振興の具体的方策を樹立し、その実現を図るため、國家の重要な機関として設立されたものであります。その使命はまことに高く、その任務はまことに重いと云ふなければなりません。しかしながら本会議の組織運営の構想は、全國科学者の総意に基づいたものであり、全國の科学者からその興奮を抱って選出された210名の会員が智能を結集して問題の解決に当らんとするもので、本会議の活動には多大の期待が寄せられるのであります。又日本学術会議は勿論國の機関ではありますが、その使命達成のために、時々政治的便宜のための制肘を受けることのないよう、高度の自主性が与えられておるのであります。ここに本会議の重要な特色があるのであります。このことはそれだけ会員の皆様の責任を重くする事と思うのであります。

どうか皆様にはその任務の重大なことを認識され、本会議の崇高な使命達成に格段の御尽力あらんことを切にお願いする次第であります。

なおこの機会に学術体制刷新の問題に関して連合軍総司令部より与えられた多大の御援助に深甚の感謝の意を表したいと存じます。終戦後我國においてこの問題が提起されて以来総司令部経済科学局当局におかれでは、終始一貫温い同情と理解とを惜まず、特に再度にわたり、学術顧問団を招聘せられるなど、貴重な助言と示唆を与えられたのであります。その御厚意と御支援とをここに政府を代表致しまして厚く御礼申し上げる次第であります。

最後に、私は学術体制刷新委員会が設置されてから今日に至るまで本会議の創設に多大の御尽力をいたいた兼重委員長を初め学術体制刷新委員会関係各位の御労苦に衷心歎意と感謝を表すると共に、日本学術会議の洋々たる前途を心から御祝い申上げて、私の祝辞といたします。

日本学術会議発会式における参議院議長祝辞

祝 話

新しく成立いたしました日本学術会議の発会式を挙行せられるにあたりまして、一言所懐を申述べますことは、私の欣幸とするところであります。

思うに、文化的民主日本を再建する上に大きなものであります。同時に、廣く文化一般の興隆に寄与すべき強い基礎を築くことが、また極めて緊切な事柄であることは、あらためて申すまでもないことと存じます。

乃ち賢明なる全國の科学者諸君におかれましては、他の行政各部機関の民主的改革と平行いたしまして、旧学術体制の吟味検討につきに意を注がれ、諸種の難問を開闢しつつ、撓まず努力せられました結果、その総意を反映した学術体制刷新委員会の成案となり、さらに第二回國会においてこれを立法化し、日本学術会議法が制定されるに至ったことは、邦家のためまことに慶賀に堪えないところであります。この法律にもとづきまして、旧暁日本学術会議会員の選舉が、全日本の科学者諸君の間に行われ、各位がそれによって当選の栄誉を荷されましたことに対し、衷心およろこびを申上げます。

敗戦以来荒廃したわが國土の上に、健全な文化國家を再建すると共に、世界の平和に貢献致しますために、科学の力が最も有効に応用されなければなりません。全国科学者の代表機関である日本学術会議の、今後における運営がよろしきを得るや否やは、直ちにかかるわが再建文化國家の盛衰にはもちろん、人類一般の福祉にも影響があるものと存ずるのであります。各位のご實務は、まことに重且つ大であります。

國会をいたしましても、各位のご活動に対し、できるだけ協力を致すことと信じます。何卒、各位におかれましても、切にご自愛ご自重の上、崇高なるこれら使命の達成に精進せられ、十分に日本科学者の真価を内外に発揚せられますよう、心から念願しまして祝辞と致します。